

(7) 透明度 (杉山)

1984年7月5日と1985年1月7日に湾内5地点で透明度板(φ30cm)を使用して透明度を測定した。

結果は図15に示すとおりである。前年度と比較するとほぼ類似しているが、冬季が天候の影響で多少悪いように思われる。

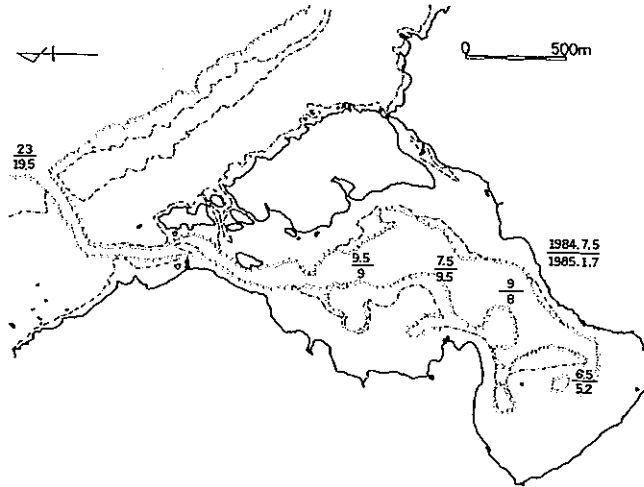


図15 川平湾内定点における透明度(m)

要約

- (1) ヒメジャコの生殖巣部湿重量調査は、5～8月まで実施した。生殖巣部湿重量比(GWR)は6月に $49.9 \pm 6.7\%$ と最高値を示し、8月には $13.8 \pm 0.8\%$ と調査期間中の最低値を示した。今年度は5月まで成熟が悪く、その後一挙に成熟して8月に一斉放精放卵をしてしまった。産卵期の短い年であった。
- (2) ヒメジャコの定点での成長量調査は6個体を継続測定した。1978年の調査開始時には穿孔長径値で $1.05 \sim 1.40$ cm ($\bar{x} = 1.23 \pm 0.11$ cm)であったものが6年間で $8.40 \sim 9.70$ cm ($\bar{x} = 9.07 \pm 0.45$ cm)となった。今年度までの結果から測定場所でのヒメジャコの平均的な成長式は $L = 13.81 (1 - e^{-0.0010 - 0.1638t})$ で表わされた。
- (3) ヒメジャコの放流効果調査は、埋め込み法、折衷法、人工基質法(セメントブロック法)の3法を試験及び継続調査した。今年度の放流数は埋め込み法で5,071個体、折衷法で6,800個体、そしてセメントブロック法で493個体であり、合計12,364個体であった。
- (4) シャコガイの生息状況調査については、今年度は10月2日に石西礁湖内の黒島の主に北側の海域で大型シャコガイの生息状況を調査した。調査個体はヒレジャコが6個体、シラナミ4個体、シャゴウ3個体、そしてヒメジャコ9個体であった。シャゴウは採集後船上の容器内で2個体の放精が観察された。ヒメジャコは生殖巣部が萎縮していた。調査個体は全て採集し、ヒメジャコを除いて残りは石垣島・川平湾へ移殖した。
- (5) シャコガイの種苗生産に関する試験は、ヒメジャコについてはセロトニン注射法(セロトニ